

# 令和元年度 第4回

## 川合市長と語り合うタウンミーティング

～川越市立川越高等学校生徒～



日時：令和2年2月4日（火）

午後3時40分～5時10分

場所：川越市立川越高等学校 2階大会議室

## 参加者

川越市立川越高等学校 生徒会 20名

## 出席者

市長、宍戸副市長、広報監、危機管理監、総合政策部長、市民部長、  
こども未来部長、環境部長、産業観光部長、都市計画部長、学校教育部長

## 意見数

分類	件数	内容	頁
子ども・子育て	1	・こども医療費	22
福祉・保健・医療	1	・バリアフリー	22
教育・文化・スポーツ	1	・学生の勉強場所	22
都市基盤・生活基盤	8	・クレアモールの客引き	2
		・防犯灯の設置	3
		・川越駅と本川越駅の乗り入れ	19
		・一番街の交通	19
		・氷川神社前の道路整備	19
		・川越駅東口のバス案内	19
		・ホームドアの設置	19
		・ウェスタ川越の駐輪場	22
産業・観光	5	・観光しやすい工夫	5
		・バスの本数	5
		・イートインスペースの設置	5
		・インスタ映えスポットの設置	5
		・観光パンフレット	5
環境	3	・ごみのポイ捨て	9
		・市内の緑化	9
		・環境に関する情報のホームページへの表示場所	9
地域社会と市民生活	2	・災害対応	17
		・避難場所等の情報	17
住民自治・行財政運営	2	・広報川越の掲載内容	13
		・SNSでの情報発信	13
計	23		

## 意見交換（要約）

### 《クレアモールの客引き》

**意見** 私たちは防犯について大きく2つにテーマを絞りました。

1つ目は、クレアモールの客引きが怖いということです。具体的な怖さとしては、クレアモールにある居酒屋さんの前に立っている客引きの方がいるんですけども、その方に話しかけられたら、お酒を飲まされちゃったりとか、何かをされちゃったりするんじゃないかなという不安があるというのと、18時頃から客引きをしているので、遊びの帰りとかじゃなくても、部活帰りや塾でクレアモールを通る際に客引きの方がいて怖いというのがあるのと、制服じゃなくても、私服でいると、高校生でも話しかけられるということがあって、それが怖いというのがあります。

具体的な改善策を挙げさせていただきますと、1つ目は、夕方から夜にかけてのパトロールを強化してほしいというのがあります。2つ目は、クレアモールの真ん中でもし客引きをしている人がいるとして、客引きに遭った方が警察に通報したとしても、クレアモールの端のあたりにいる客引きの仲間の人たちが、今、警察が来たので店の中に入ってくださいとか、そういうふうに仲間に連絡をしてしまって、警察の方が見つけられなくなってしまうというのがあるみたいなので、私服警官の方が見回りをしてくださっていると、そういうこともなくなるかなと思います。

**市民部長** クレアモールでの客引きについては、警察と市役所でもパトロールをしております。今お話しがあったとおり、警察官がそのまま来ますと、携帯電話等でうまく連絡をとり合って逃げてしまうということが実際あるみたいですね。私もあそこの通りのパトロールを一度、一緒に参加したことがあります。そうしましたら、もう何も無いような感じでやっていないんですね。

私服の警官については、川越警察署としても考えていて、全然やっていないわけではないと思うんですが、大々的にいろいろな時間にできるかどうかというと、警察の事情があって厳しいかとは思いますが。ただ、私からは警察に対して、高校生からそういう心配の声もあったし、私服の警官の方ができれば回ってもらえないかなという意見が出ていましたということは話をしてみたいと思っております。

客引きの問題というのは、皆さん方もそうですし、大人も無理やり連れて行かれて、多額なお金を、例えば飲むのにお金をいっぱい取られちゃうというのものもあるも

のですから、警察としてもこれは重要なことだと認識していますので、そういう意味では、改善できるように話をしてみたいと思います。

**市長** 今、市民部長がお答えしたように、地元の商店街の人とか自治会の人、そして市役所、警察も含めてパトロールはしています。

ただ、あそこの通りは客引きが多くて、割と強引な客引きをするとか、そういうことも時々聞こえてきますので、しっかりとこれからもパトロールはしていきたいと思っています。

対応の仕方としては、毅然として、あるいは全く無視して通り過ぎるのが一番いい対応の仕方です。なまじ声をかけられて、それに振り向いたり話を聞いてみようかなんて、そういう姿勢は一切示さないというのが一番いいと思います。あの人たちは呼び込むのが目的ですから、暴力を振るうとかそういうことはないですからね。その辺のところは頭に入れておいた方がいいと思います。

それと、場合によっては、私は未成年ですと、未成年に酒飲ませると犯罪ですよというぐらいのことを言ってやったって構わないと思うんですけどもね。皆さんのほうも、そういう毅然とした対応をするということと、行政のほうも、できるだけ頻繁にパトロールできるようにいろいろ努力してまいります。

### 《防犯灯の設置》

**意見** 2つ目の項目は、住宅街の電灯で、主に防犯灯についてです。

防犯灯を増やしてほしいということで、理由は、暗いと周囲の様子が確認できなかつたり、変質者が出没しても気づかなかつたり、事故を起こす可能性が高くなるので危険だと感じるからです。

主な場所として、駅から離れた住宅街や、川越市は関越自動車道が通っており、短いながらもトンネルがいっぱいあるので、その中のトンネルの電灯があってもついていなかつたりと、トンネルの中が暗くて、通るときに恐怖を感じることもあるので、改善してほしいなと思います。

**意見** 次に、改善策として、住宅街の電灯を増やしてほしいです。

防犯灯の新規設置について市のホームページを見たのですが、各自治会の意向に基づき、市の予算の範囲内、そして各自治会に電気料金を負担してもらっているため、まずは地域の自治会にご相談くださいとあったのですが、相談するのも躊躇

躊躇してしまう人も多いのではないのでしょうか。川越市に電話をかけて新規設置をする方法も検討していただきたいです。

**市民部長** 今のお話、よくいろいろな方からいただいております。中学校の授業で、川越の市政を考えるという中でも、やはり一番多かったのが街路灯、防犯灯の話でした。私もそういうのをいろいろ聞いていまして、やはり皆さん、防犯灯、街路灯は、通学する、帰宅するときとかに非常に困っているんだなというのは承知しています。

防犯灯については、結構な灯数を市内でもつけているんですけども、やはり郊外ですとなかなか行き届かないというのが現状かなとは思っております。

ただ、防犯は地域とともに犯罪を防ぐんだという考えがあります。自治会と市役所が協働して、市役所だけで全部やるのではなくて、地域の方々にも協力いただいて一緒にやっていきたいと思いますという考えのもとにやっています。防犯灯は、昔は普通の蛍光灯だったんですけども、昔はよく球が切れまして、せっかくついていても暗くてしようがなかったというのがありました。そして、その球を変えるのは自治会の方にやってもらっていました。今ではLEDに変えて、10年くらいはもつようになったので、メンテナンスがほとんどなくなりました。

それと電気料の話も先程ありましたが、電気料も全部市が払っているのではなくて、半分市が払って、半分自治会にということで、先ほど言った協働で、みんなで地域を守りましょうという考えのもとに半分ずつ折半してやっています。そういうことがあるので、防犯灯の設置は地域の自治会に相談してくださいと言っています。例えば市に直接お話しただいて防犯灯をつけると、自治会の負担が2分の1増えてしまいます。自治会が承知していないと、あれ、何でこんなところに防犯灯をつけちゃったの、私たち自治会の予算で払えないよということになると困ってしまうので、自治会にご相談いただきたいということがあります。

その辺の改善については、今すぐというのは難しいと思うんですが、今後そういう意見が強くなれば、方針を変えていくということもあるかもしれません。ただ、今のところは地域の皆さんで犯罪を防止しましょうという形でやっていますので、ご理解いただければなと思っております。

**市長** 今、市民部長が話をしたとおりなんですが、川越市には35万人の人がいます。20歳以上の人だけでも27～28万人います。行政としては、個別の人の要望に

即お答えするというのはなかなか難しい面があるんですね。同じ要望が一定程度の範囲、広がりを持った、多くの人の要望を優先して対応していくという面があります。ですから、防犯灯の設置等についても、自治会を通して要望が出るということは、その自治会、その地域の皆さんの要望であろうということが分かるという、そういうことがあります。だから、先ほど市民部長が言ったようないろいろな理由もあるんですけども、自治会を通して、これは大勢の要望ですよということが分かるような形で出していただいたほうが行政としても対応できるということにある意味ではならざるを得ないんです。

**市民部長** 補足になりますが、現在のところ防犯灯は市内に2万3,000灯ぐらいつけています。先ほど市長が申し上げたとおり、ここが危ないのでつけてくださいというところは優先してつけるようにはしています。ただ、そういうお声は、自治会からになりますので、保護者の方と相談して言っていただけるとありがたいです。

#### 《観光しやすい工夫》《バスの本数》《イトインスペースの設置》

#### 《インスタ映えスポットの設置》《観光パンフレット》

**意見** 観光について大きく分けて6つの点で意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、1つ目です。観光客が観光地に行きやすいように、楽しみやすいように工夫をしていただきたいということです。これは自分の体験談でもあるんですが、高校に入ってから、遠くから登校してくる生徒が多い中で、駅から登校してくるまで、それとあと、放課後や休日にクレアモールへ行った際、遊ぶ中で分かりにくいという声が多く聞かれたというのもあります。具体例ですが、スマホで見られるようにマップをアプリなどで作っていただきたいです。現在地がスマホのマップのような形だったら分かりやすいのかなと思います。

次に、現在地から観光地までのおおよその距離を示すラインだったり、看板だったり、視覚的に分かりやすいような目印を立てていただくことで、観光客の皆さんも分かりやすいのかなと思います。

最後に、ごみ箱やトイレの位置をもう少し分かりやすくしていただきたいなと思います。なかなか見つからないということが自分も多いです。

2つ目です。バスの本数を増やしてほしいという要望です。

自分はあまり駅からのバスには乗らないんですが、同級生からの声というのが非常に大きくて、バスの本数が少ないというのが本当、みんなそういうふうに思っているのかなと思いました。

**意見** 私からは2つお話しさせていただきます。

まず、クレアモールの中にイートインスペースを造るということです。

小さな子どもが歩き疲れて家に帰りたくなくなったり、食べ歩きで出たごみが道を汚してしまったりということがあるので、クレアモールの中に少しでも休憩できるようなところがあれば、より多くの人に楽しんでもらえると思うので、幾つかイートインスペースを設置したほうが良いと思います。

2つ目は、時の鐘から神社までなど各観光名所が離れていて、その移動の間に楽しめることがあまりなく、名所巡りを途中でやめてしまったりという方がいるので、具体的に公園など人が集まる場所にインスタ映えスポットを設置したりすれば、高校生や年配の方も多く楽しめると思います。

**意見** 私からは、同じく2つ提案させていただきます。

まず、イベントを開催するというのを提案させていただきます。

地域の方や観光客の方が楽しめるイベントがまだ少ないなと感じたので、例えばハロウィンやクリスマスなどの年間行事の際に、駅前でイルミネーションをして、写真を撮って楽しめるスポットを作ったり、皆さんが参加できるようなスタンプラリーなどのイベントをしたりするのもよいと思います。年間行事以外でも、今年は2020年なので、オリンピックを盛り上げられるような体験ブースなどのイベントを開催したりするのもいいと思います。また、そのときに参加賞なども用意しておく、小さいお子さんだったり、もっとたくさん集まってくれるかなと思います。

そして、2つ目は、観光のパンフレットについて提案させていただきます。

おすすめ一日川越観光などといったおすすめスポットを一日でまわれる場所をパンフレットなどにしてまとめて、駅前で配るというものです。観光客の方の中には、どこに行こうか、どういうルートでどうやって行こうかということで悩む方もいると思うので、観光ツアーの一つの案として、こちらから提案するというのであれば、もっと楽に楽しんでもらえるかなと思います。なので、そういった小さなパンフレットだったりを作っていただきたいなと思います。

**産業観光部長** まず1点目、スマホで分かりやすいようにというお話だったかと思

います。こちらにつきましては、川越市のほかに、小江戸川越観光協会という協会があります。川越のPRなどを行っている団体です。その観光協会と市でホームページには観光マップを掲載しております。ただ、これがPDF版で掲載しておりますので、ちょっと見にくいところがあるかと思います。今のご意見があったような形で、もっと便利に使いやすいマップ等の情報が閲覧できる手法について検討させていただければと思います。

それと、2点目のバスの本数につきましては、市内の観光ということで、路線バスと違って市内の観光名所を回るようなバス、名所巡りと巡回バスというのを、2つの会社でそれぞれやっております。ただ、本数ということになりますと、そこはバス事業者さんのほうも採算というのがあります。どのぐらいお客さんがいて、1日何便走らせてどのぐらいの収益があるということをやっていますので、本数をすぐ増やしていくというのはなかなか難しいとは思いますが、そのような意見があったということで、市からバス事業者さんに伝えていきたいと思っています。

また、現在、バスが回るルートについても、バスの事業者さんと観光客がさらに便利になるようにということで協議をしているということですので、そういった中で本数についても話をさせていただければと思います。

次に、クレアモールの中のイートインスペースについてでございます。こちらにつきましては、クレアモールの中ということで、途中、公園等、そういったところもあるかと思いますが、基本的には、商店街の関係者、あるいは関係団体、そういったところと意見交換をやって、皆さんで合意ができれば、対応していければなと思っています。

川越市の中心市街地ですと、観光客、市民を含めてちょっと休むというスペースがないというお話は聞いております。休めて、さらにそこでイートインということで、商店街、あるいは関係団体と話をしてみたいと思っています。

それと4点目が移動時間を楽しめる工夫というお話だったかと思うんですけども、今、市では、来訪した方、観光客が楽しめるようにということで、インスタグラムをはじめとするSNSに投稿したくなるようなスポットなどを増やしていきたいと考えています。

また、これは民間でもかなり力を入れているところもございますので、そういったところとあわせて考えていきたいです。可能であれば、観光客が集中していると



ころを面的に分散するという効果としてはありますので、今まで観光客があまり足を踏み入れないようなところでできればおもしろいのかなと思います。

それと、5つ目のイベントのお話ですけれども、現在、川越市では様々なイベントを行っております。さらに、先ほどの小江戸川越観光協会やDMO川越という、おととしの11月に誕生した組織もございます。川越市だけではなくて、そういった観光の関連する団体でも検討して、ご指摘のようなイベントの際には、それをさらに盛り上げていくような、あるいは先ほど2020年のオリンピックの話がございましたけれども、そういったものを契機として、何かしら市民をはじめ観光客の人を楽しんでいただける、あるいは観光客の人にもう一度、川越に行ってみたいと思っていただける、そういった形で取り組んでいきたいと思っております。

それと、おすすめ一日観光パンフレットにつきましては、市で作成した、いろいろな観光コースを冊子にしてまとめているようなものがございます。それだと一日というわけにはいかないかもしれませんが、例えば川越の場合、観光客の皆様の滞在時間は4時間ぐらいが多いということですので、一日、あるいは半日で巡れるような、そういったものも、今いただいたご意見を参考に、できれば検討していきたいなと思っております。

ごみ箱やトイレにつきましては、確かにご指摘のとおり、なかなか分かりづらいというお話がございます。川越の場合は、このような散策マップというのを作って観光案内所等で配布はしているんですけども、この中でも結構字が小さくて見にくいというご指摘もございます。現在、トイレは、和式の便器が多いんですけども、洋式に変えていっています。菓子屋横丁の近くにある高澤橋という橋があるんですが、その脇にトイレがあります。あそこも今、全体をリニューアルしているところでして、和式から洋式に変えて、外観も今までよりも分かりやすくなると思います。そういった面で、場所が分かるとともに、このトイレ嫌だなど思わないで使えるような、清潔感あふれるような形にしていければと思っております。

今日いただいた意見は担当課のほうに持ち帰りまして、またさらに検討して、できることは1個1個対応していきたいと思っております。

**市長** 観光に関していろいろ提案をいただきまして、ありがとうございます。

今、産業観光部長がお答えしたように、既に一部やりつつある、そういう事業もありますし、なかなか手をつけられない、いいアイデアではあるんですけども、手

をつけられていないという事業もあります。

皆さん方の意見を参考にしながら進めていきたいと思っていますけれども、1点だけ、例えばイトインみたいなものについては、簡単に言うと、市や町が商売をするわけにいかないの、民間の人にこういうものをぜひ作ってほしいなどお勧めをすとか、そういった形にならざるを得ないだろうと思いますので、その辺のところは理解してもらえればと思います。

**宍戸副市長** 何がインスタ映えするのかという感覚は、皆さんとは相当ずれてしまっているの、よく分からないところがあります。例えば、先ほど産業観光部長から高澤橋のトイレの話がありましたが、その工事にあたり私はこう言いました。インスタ映えするトイレを作れ。普通のトイレにしてしまうより、屋根の上に舳斗雲（きんとうん）を乗せればすごくいいんじゃないかと言ったんですけれども、お金がないからということで普通のトイレになりました。

皆様方で、ここならインスタ映えしますよといういい候補があれば、どうぞ言ってください。そうすると、そこを開発してインスタ映えするように市としてできることもあるかと思えます。例えば時の鐘のスタバのところは猫がいっぱいいるんですけれども、そこで猫と撮ってインスタに投稿する方もいらっしゃいます。我々にその感覚はよく分からないものですから、皆様方の感覚でご提案をいただければ、そこを選定してインスタ映えしますよとお勧めしていきたいと思っています。

## 《ごみのポイ捨て》《市内の緑化》

### 《環境に関する情報のホームページへの表示場所》

**意見** 環境については大きく2つに分けて、ごみのポイ捨てについてと、あと市内の緑化について話していきたいなと思っています。

私は、ボランティアでゴミ拾いに参加したことがあるんですが、たばこのポイ捨てが多いなと感じました。川越では、駅前など人通りの多いところを路上喫煙禁止区域にしているそうですが、駅前でもたばこのポイ捨てはたくさんありました。川越は観光客が多い市なので、人通りの多い規制をかけているエリアでのたばこの喫煙、ポイ捨ては、もう少し巡回を強化して、きれいな町並みをつくっほうがいいのではないかなと思います。

今はたばこに焦点を当てて話したんですが、たばこに限らず、ごみのポイ捨てを

なくすにはどうしたらいいかという話で、市民の意識、雰囲気から変えるしかないと思います。

川越ではごみゼロ運動が何年も続いています。今のごみゼロ運動は、参加する年齢層が限られていて、市民全体の意識を変えるイベントとしては、あまり機能できていないかなと思います。

例えば和光市のごみゼロ運動では、川越もそうなんですけれども、自治会ごとに参加申し込みを行っていて、自治会優待カードという自治会に入っていると特定のお店で割引などの特典が受けられるカードが自治会に入っている世帯ごとに配られています。このようなシステムを川越にも導入できれば、自治会に参加する世帯が増えて、自治会に参加する世帯が増えることで、家族ぐるみの参加をして、中高生などの参加も見込めるようになるんじゃないかと思います。

**意見** 私からは、自然を増やす方法として3点、ビルなどの屋上の緑化、あと空き地の緑化、またはグリーンカーテンの3つを提案させていただきます。

ふだん学校生活などを送っていて、川越市を利用して感じたことなのですが、公園であったり街路樹であったりは、十分に緑化が進んでいるのではないかというふうに感じています。なので、自然が普通だと少ないビルであったり、建物での緑化を行うことにより、効率的に場所が使えて、かつ効果も見込めて、川越などの人口の多い市となると、ヒートアイランド現象などの問題もあると思うのですが、その緩和にもつながるので、この案を提示させていただきました。

また、ビルとか商業的な施設になってしまうと民間のほうというお話が先ほどありましたが、川越市に建ててあるものに対して、川越市からの呼びかけをさらに広めていただくことによって、より効果が見込めるのではないかなというふうに思いました。

**意見** 私からは、ホームページの環境の項目についての提案をさせていただきます。

内容というよりは掲示の方法になるのですが、何度もURLをクリックしページを飛ばないと、目的の情報にたどり着かないため、市民の皆さんなどが求める環境についての情報を端的に表していただければと思います。方法としては、環境についての項目を絞って、一番最初のページに表示していただければと思います。ご検討をお願いします。

**環境部長** 環境についていろいろなご意見をいただき、本当にありがとうございます。

す。

まず、1点目、たばこのポイ捨てについては、ご存じのとおり、川越駅周辺と本川越駅は、路上喫煙防止法の関係で、指定区域ということでたばこのポイ捨て禁止という形になっております。また、駅の周辺には指定喫煙場所というのが設けてありまして、そこで吸っていただくことによって、健康の面にも配慮しております。

ただ、実際、たばこを吸っている方のモラルが大きく影響するところでもありますので、市としても啓発活動に取り組んでいます。先ほどごみゼロ運動とかボランティアに参加していただいているということで、非常にありがたいことなんですけれども、そういうことを通じて、また、駅周辺での啓発活動をいろいろな団体に頼んでお願いしたり、また自主的にもたばこのポイ捨ての対応を委託して、きれいに行っているというような状況がございます。このような状況を踏まえて、今後も啓発活動を中心に進めてまいりたいと考えています。

次に、2点目、ごみゼロ運動の回数ですね。ごみゼロ運動は、年2回、5月と10月頃行っております。先ほど自治会加入での割引や、若い方も参加できるようなシステムの構築というようなご意見をいただいているところなんですけれども、現在、川越では、年に2回で、約300団体の方で、人数でいくと9万人の方がこの2日間でごみを集めていただいております。ごみの収集量は100トンになります。川越市では、全部のごみの量を合わせて年間11万トン进行处理しているんですけれども、このうちの100トンをこの2日間で集めています。

環境部では、市民の方にいろいろな形でご協力やご理解をいただいて、ごみを少なくして、皆さんが住みやすいまちにしていくために事業を行っております。その中で、若い方がもっと参加していけるような工夫というのは、若干足りない部分もございます。割引サービスとか、いろいろサービスがそこまでできるかというところ、なかなか難しい部分もございますが、どんなふうにすれば若い人が参加できるのか担当部局でも相談していきたいと思っております。

3番目の町なかの緑を増やすということなんですけれども、川越は人口35万人ということで、非常に町なかもビルが多くなって、緑がないという状況です。また、公園自体もなかなか増やすことができないというような状況があります。緑自体は埼玉県条例がございまして、その中に、ある一定の規模以上の建物については、どれだけ緑化をしてくださいますとありますので、公共施設とか大きなビルになりま

すと、そういう工夫もしています。それと環境配慮ということで、地球温暖化対策、ヒートアイランド現象などに貢献するようなものを何かやってくださいねというのもあります。ただ、民間になりますと、壁面緑化などは、皆さんに新たな負担をしていただかなくてはいけないという状況もございますので、パンフレットを使ってその折にはぜひお願いしますという協力を求めたり、緑を増やす工夫ができないか検討したいと思います。

また、公共施設に緑ということでございますが、市民の皆さんにお願いして、花いっぱい運動とか、夏場でいうと緑のカーテンというので、公共施設も含めて学校や公民館、あと自治会館の集会場などを利用して、苗を配ったりしてゴーヤを育ててもらおうとか、そういうものもさせていただいております。恒常的になると、やはり条例とか規則とか、新たな経済的な負担とかもありますので、それはその施設について相談させていただかなければという状況です。今後できるだけ緑を増やすような形で啓発活動に取り組んでいきたいと思っています。

4番、ホームページの環境に何回かクリックしないと到達しないというご意見ですが、実は私もそう思っていました。今、環境問題というのは、新聞報道でもテレビでもいろいろ出ていますし、SDGsというのはご存じかなと思うんですが、そういうところでも、やはり一部の政策として取り組まなければいけない状態にあります。それにもかかわらず、ホームページは何回かクリックしないと、自分の望む情報にたどりつかないということでございますので、そちらについても、今話題になっているものなどが簡単に出るように工夫していきたいなと思っています。

**広報監** 今、ホームページは、環境だけじゃなくて、ほかの情報もたくさんクリックしないと、自分が望む情報にいきません。こちらからのお願いとしては、検索システムにグーグルを使っておりますので、早くその情報に到達できるはずなんです。ですから、その検索を使っただかくか、あとは今後なんですけれども、クリックをなるべくしないで済むような改善をしていきたいと考えております。今、緊急で情報を探したい場合には、その検索をお使ください。

**宍戸副市長** 現在、市のトップページの一番最初は新型コロナウイルス感染症について載っています。トップページにくるものは、そのとき市民にとって一番大事なことが載っているんです。今、広報監が言ったように、トップページを見れば、市は何が大事と考えているかがよく分かりますので、そういうことも踏まえながらご

覧いただくと、よく分かると思います。

**市長** それとごみゼロ運動について和光市の例を挙げておりましたけれども、確かに今、ごみゼロ運動はやや形骸化している面があるので、もっと参加者を増やすとか、積極的にごみを拾ってくれるような、そういうことに対するインセンティブとか、利益とか、そういうようなものを与えるというのも一つのやり方だと思うので参考にさせてもらいたいと思います。

### 《広報川越の掲載内容》《SNSでの情報発信》

**意見** 私からは、情報発信の広報についてお話しさせていただきます。

まず、市のホームページで広報を見させていただいたところ、全体的に見て、字が小さくて読みにくいなと感じたので、字体を明朝体からポップ体などに変えると、印象が変わって読みやすくなると思います。

そして、私の周りの知り合いに広報について聞いてみましたが、そんなに読む機会がないということが分かりました。そこで、広報を読む世代を増やすために2つ提案させていただきたいと思います。

1つ目は、市内で行われている取組をたくさん紹介しているのは分かるんですが、市内の小中学校で行われていることに特化したコーナーを作れば、子どもも積極的に見てくれるのではないかと思います。

具体例を挙げると、私の住んでいる日高市の広報では、市内で行われているイベントを紹介するコーナーの一部で、市内の小中学校で行われた課外授業などを紹介しています。

提案2つ目は、1歳の誕生日を迎える子の顔の写真を紹介することです。具体例を挙げると、桶川市では保健センターや市役所などで申請している1歳から3歳までの子の写真を撮って掲載しています。この1歳の誕生日を迎える子の顔写真を掲載することで、子どもを持つ親の方は、その広報を見て我が子を広報に載せたいなと思う人が増えると思います。

今言ったことを広報に全部載せ切れなと思うので、広報の有効活用を提案させていただきたいと思います。広報に市のホームページのSNSのQRコードを載せることをすると、広報を見た方から、この取組をもっと知りたいなと思ったときにQRコードをそのまま携帯電話とかで読み取ることで、そのままホームページに飛

べて、知りたいことをそのまま知ることができます。さらに、広報への意見をはがきを書いて送ると、市のお菓子を抽選でプレゼントしている市もあります。これはふじみ野市なのですが、これをするすることで、広報の向上、市民の意見を取り入れることで、市民の知りたいことや、教えてほしいことが具体的に分かると思います。さらに、市のお菓子を抽選でプレゼントしたりすると、この市のお土産や市で作っているお菓子などをPRすることができます。

**意見** 私のほうからは、先ほど話が出たのですが、SNSでの情報発信についての方法を提案させていただきます。

インスタグラムやLINEなどといったアプリケーションにおいて、アカウントを開設することによって、川越の観光地をアピールしたり、市の取組だったりイベントを告知することが可能になります。

SNSでフォローという機能がありまして、フォローというのは、SNSを利用している人が興味、関心を示したほかのアカウントの通知を受け取ったりできるような機能になっていて、フォローすることによって、情報がより早く入ってくるような仕組みになります。その仕組みを利用して、フォローしてくれている人にダイレクトメッセージといって、直接メッセージを送れる機能があるんですが、それを利用して、川越のお店で使えるクーポンを配信、配信とかしていくのも、情報発信において、かなり有益なのではないかなというふうに思います。

また、ゆるキャラの活用という点で、ゆるキャラがアカウントにおいてメッセージを発信しているという市もあって、これはさいたま市なんですけど、そのほかにも、毛呂山町のように、ゆるキャラが自身のアカウントでまちについての情報を発信しているところもあります。

インスタグラムのアカウントを開設した後の具体的な案についてなのですが、ハッシュタグというものがありまして、簡単にハッシュタグというのを説明させていただきます。インスタグラムであったりツイッターなどといったSNSでは、アカウントを作ると、画像に付随してコメントを投稿、掲載することができるんです。そのコメントのところに、楽譜とかにあるシャープの記号を打ち込み、例えば「#川越」であったり「#蔵造りの町並み」という形でコメントをつけることによって、同じキーワードをつけられた投稿を瞬時に全て確認することができる機能になっています。そのため、川越に観光に来ようと思っている方々の興味、関心がピンポイント

ントで反映された投稿を瞬時に提供することも可能になります。また、「#川越」といったハッシュタグをつけることによって、ハッシュタグをタップすると、そのハッシュタグがつけられた投稿が何件あるかというのも、アプリケーションで表示されるので、拡散率というのがすぐに可視化することができます。そのため、その後に行おうとしている事業だっったりに活用することも可能になります。

SNSは現在すごく普及しているので、どこか観光に行くとなった際に、その観光地のホームページを調べるという方もいるとは思いますが、やはりインスタグラムなどのアプリケーションを使って、その観光地についての情報を収集するという人たちがほとんどなので、かなりインスタグラムの開設であったりは有益だと思います。

実際、私も海外に親戚がいるのですが、以前、川越に来るとなったときに、インスタグラムでローマ字で「KAWAGOE」というふうにハッシュタグをつけて調べたところ、時の鐘であったり、スイーツのお店であったり、様々な情報がすぐに出てきて、かつ英語で投稿されている方もいるので、そういうものもあって、かなり効率的に情報を発信していけるのではないかと思います。

以上の理由により、今後の情報発信においてハッシュタグは重要になっていくと考えています。そのため、インスタグラムやツイッターなどを開設する際は、使用を検討していただければなというふうに思います。

**広報監** まず、広報の字の大きさについてです。今日たまたまなんですけれども、広報を持ってきました。広報では何種類か書体を使っています。その中で一番大きいもの、明朝体なんですけれども、最初のページのほうに使っているんですが、それは新聞の活字よりもちょっと大きくなっています。ただ、情報がいっぱいになる後ろのページになると、少し字を小さくして、なるべく情報をたくさん載せられるように工夫をしています。ですから、皆さんに一番最初に読んでもらいたい情報については、大きな活字を使っているということをご理解いただければと思います。

続きまして、広報を読む世代を増やすということで、中学校で行われた課外授業などを紹介するのはどうかということで、非常に不定期ではあるんですけども、たまにそういった小中学校の取組なんかを「ひとまち」というコーナーを設けてご紹介しています。ただ、これは川越市内に住む町の方の活動や、そういったものを紹介しているものですから、小中学生に特化した内容ではありません。ただ、



子どもさんはどんな活動をしているというのは、やはり市内の方にとっては、知りたい情報だと思いますので、なるべく掲載していきたいと考えています。

それと、小さな子の写真を紹介してはどうかというご提案なんですけど、10年ぐらい前には「ちっちゃな笑顔」という1歳から3歳までの子どもさんの写真を広報に掲載していたんです。10月号と25月号があって、25月号のほうに紹介していたんですけども、多いときは大体8人くらいのお子さんを紹介したこともあります。ただ、人を紹介するときは、当然名前、あと同姓同名の方がいらっしゃるかもしれないので、住んでいる町名と、あと年齢を掲載するんですけども、そういったものは全て個人情報になってしまいます。当時、掲載をこのままでいいのかという議論がありまして、それでだんだんとなくなっていったって、10年ぐらい前からなくなったという経緯がございます。

川越市は35万人いますので、小さなまちだと、人の顔が見えるから、それほど犯罪とか悪いことに使われたりしないんですけども、35万人いると、その情報をどういった形で使われるか分からないので心配なところがあります。そこをご理解いただければと思います。

その次に、個々に市のホームページやSNSのQRコードを載せるということなんですけれども、広報の裏表紙のところにQRコードを載せております。ただ、これは市のホームページのトップページにくるものなので、知りたい情報に直接行けるものではありません。これからは広報で紹介する文字が少なくても、ホームページでしっかりお伝えする、そんな方法がこのQRコードなどを使ってできればと考えています。

次に、インスタグラムとLINEなんですけれども、まずLINEについては、自治体専用の無料で使えるものがあるらしいので、新しい使い方をこれから考えていきたいと考えております。

LINEの場合は、双方向性が大事なので、できればそうしたいんですけども、こちらからの発信に対して、お返事いただいたときにどうしようというのが決まっていないので、その辺りをご理解いただければと思います。

あとインスタグラムは、前に若い方とお話ししたときも、やはり使ってはどうかということではなされました。今若い方の中で非常に受けていて、「バズる」という言葉もそのとき教えていただきました。できれば川越の情報がバズるような、そん

なものをできたらいいなど。まだインスタグラムは導入していないんですけれども、そんな感じで川越が盛り上がるような方法を、インスタグラムやLINEを使って考えていきたいと思っておりますので、そのときにはお手伝いいただければと思います。

### 《災害対応》《避難場所等の情報》

**意見** 災害について2点あります。まず1つ目は、この前の豪雨の件で、実際に浸水の被害に遭った生徒に聞いてみたのですが、豪雨のときの手続きの書類を出す窓口がたくさんあって、どこに提出していいか分からなかったと言っていたのと、浸水した際に家の消毒をしていただいたそうなんです、あまり隅々までやっていただけなくて困ったと言っていました。

もう1点目として、災害がいつ起こってもいいように、避難場所の確認を広報やホームページ等で分かりやすく載せていただけるとありがたいかなと思います。

1点目の豪雨のことについてなんです、そのときだけ窓口をまとめていただくとか、あと消毒についてなんです、多分人手不足だったと思うので、ボランティア活動などを被害に遭っていないような市内の高校の生徒たちなどにお知らせをして、手伝ってもらえないかなどをお知らせしてみるのはいかがでしょうかと提案させていただきます。

**危機管理監** 昨年10月の台風19号では、川越市でも大雨特別警報がありまして、まさに数十年に1回のような雨でした。川越市でも1日で325ミリの雨が降って、市内だけでも4,900の方が避難して、市内のいろいろなところで浸水被害が発生してしまいました。

そういった中で、市もそういった被災された方に一日も早く元の生活に戻れるようにいろいろな支援をしていますけれども、その支援の書類の提出先がなかなか分かりづらいというご指摘の点についてですが、床上浸水であるとか床下浸水、そういった被害の程度によって受けられる支援も違ってきますし、提出する書類も違ってくるといことで分かりづらいというご意見はいただいております。まずこの点については、市が支援できる内容をまとめたパンフレットを作りまして、被災された全世帯にお届けさせていただきました。

次に、ご提案のあった書類の提出は、市役所の窓口1カ所にできればいいのではないかという点ですけれども、確かに市役所の1階、2階、3階といろいろな階に

行って書類を提出するというようなことは大変なことです。市では、いろいろな手続きがあって非常に大変だということで、市役所の1階に被災された方の相談窓口を2週間程度設置しまして、お客さんが市役所内を回るんじゃなくて、お客さんがそこに来ていただければ、関係する各職員が出向いて、ワンストップで申請書を受けたり、相談に乗る窓口を開設したりしていました。ただ、周知不足のところがあったのかもしれませんが、いずれにしても、そういったご指摘の点はおっしゃるとおりだと思いますので、周知等も含めて改善していきたいと思います。

それと、2点目の消毒はしてくれたのはよかったんだけど、あまり隅々までやってくれなかったという点ですけれども、市の対応が至らなかった点がもしあれば、大変申し訳ございません。基本的に消毒は、家の中が水につかってしまって、その水が引いて、ある程度乾いて家具等を移動したときに、家の中に入ってするものです。基本的には家族の方にも同席いただいて、もし希望があれば庭もやりますし、その家族の方のご希望があれば、基本的にどこでも消毒しますよというスタンスでやっています。もし至らない部分があったら、その場で言っていただければと思います。

それと、市の職員が足らなくて、十分にできなかったのではないかという点ですけれども、消毒で薬剤をまく機械は限られていますので、去年のように大きい災害のときには、川越市緑地協会という造園屋さんの集まりがあるんですけれども、台風が来る前に、今回の浸水被害が出たら、そういったところの消毒のご協力をお願いしています。今回でも市内の10の事業者に協力をいただいて、いろいろなところの消毒を対応させていただきました。

ボランティアというお話もあったんですけれども、主に社会福祉協議会で対応してまして、ボランティアの方が何をするかというと、例えば浸水してしまった方のお宅の家具の搬出とか、あるいは庭にたまった泥の清掃とかです。そういったものはボランティアさんに常にお問い合わせしているんですが、今回、延べ約1,000人ぐらいの市内のボランティアさんが集まって、大変ご協力していただいたところです。

最後に、避難場所等についてホームページで分かりやすくという点ですけれども、確かに他市のホームページを見ると、川越市より分かりやすいかなという部分もありますので、そういったものを参考にしながら、誰が見ても分かりやすいように改善していきたいと考えております。

あと一昨年、水害ハザードマップというのを市内全世帯にお配りさせていただきました。どこが浸水の危険性があるとか、そういった冊子にまとめたものが、川越市内であれば必ず家にあると思いますので、まずは自分のお宅がどういう災害の地域になるのかよく確認しておいていただくというのが重要だと思います。その上で避難が必要かどうかになりますので、そここのところを確認しておいていただければと思います。

《川越駅と本川越駅の乗り入れ》 《一番街の交通》 《氷川神社前の道路整備》  
《川越駅東口のバス案内》 《ホームドアの設置》

**意見** 私たちからは、交通について大きく分けて5つお話しさせていただきます。

1つ目は、東上線と川越線は同じ川越駅にあるのに、西武線だけ本川越駅なのは何でなのかというお話です。

私たちが考えた解決策が2つほどあって、川越駅に西武線を乗り入れる。もう一つは、朝霞駅と北朝霞駅のように線は違うけれども、徒歩1分で使うことができる駅を川越駅の近くに造るという策です。これは結構実現するのが難しいと思うんですけども、一つの意見として軽く聞いていただければと思います。

**意見** 私からは、まず蔵造りの道路についてお話しさせていただきます。

蔵造りの道路が車道は広いのに歩道が狭くて、車とすれ違うときにすれすれでぶつかりそうになったりして危ないと感じるので、もしできるのであれば、歩道をもう少し広げたり、道路を一方通行にするなどしていただきたいなと思いました。

次に、氷川神社の前の道路についてなのですが、こちらも同じように狭いと感じるので、広くしていただきたいというのと、これは聞いた話なんですけど、ブロックが一部壊れていたり、白線が消えかけているそうなので、そこの道路を改善していただきたいと思いました。

**意見** 私からは、バスと電車についての提案をさせていただきたいと思います。

1つ目は、川越駅のバスについてです。

川越駅東口にモニター付きのバスの時刻表がついていると思うのですが、少し高めの位置にあることや、その上にある時刻表の字が壁と同化しており見えづらい色となっていることから、これが時刻表だと認識しづらいのではないかと思います。

それから、バスのある場所のマークも分かりづらいため、大きなマップなどを設

置することを検討していただきたいです。

マップとバスの時刻表を隣り合わせに設置し、歩行者の目線の位置に合わせてあげることで、時刻と場所が一緒に見ることができ、利用する方も分かりやすくなるのではないかと思います。市民以外の人も多く利用するため、より使いやすくしていただきたく提案させていただきました。

もう一つは、ホームドアの設置についてです。東武東上線にはホームドアが設置してあると思うんですが、JRと西武線には設置していないと聞きました。東上線よりもJRなどが利用者が多いため、設置していただければ、事故防止につながり、生徒も安心して通学することができるのではないかと思います。ご検討をお願いいたします。

**都市計画部長** 若い方が公共交通の関係に関心を持っていただけるというのは、非常にありがたいと思っています。公共交通は、やはりそこに必ずあるものではなくて、皆さんに乗ってもらわないと維持していかせないので、ぜひ公共交通に関心を持っていただいて、これからも積極的に使ってもらえるとありがたいと思っています。

順番に回答させていただきますが、まず1つ目、西武線だけ何で本川越なんだということでありますけれども、実はできたのが一番古いのは本川越駅なんですね。本川越駅ができて、その後、川越市駅ができて、東武線の川越駅ができて、最後、JR線の川越駅ができたといったような経緯があります。

ここにいる方は誰も生まれていないような時代、1940年頃には、実は西武線は川越駅まで乗り入れていたというような歴史があります。今も地図をごらんいただくと、ちょうど西武線のところからカーブしているような道路と家が並んでいたりして、それが実は西武線が乗り入れていた跡らしいというような話がありますので、恐らくやってやれないことはないというところだとは思いますが、現状、どこに駅を造っていくのかとか、そうした問題というのがどうしてもあります。我々も雨の日とか、足が不自由な方とか、高齢者のことを考えると、本川越と川越の乗り換え、そうしたところは便利にしたほうが良いとは考えておりますので、要望していくとか、我々のできることはしていきたいと思っています。

2つ目の蔵造りのところの交通問題なんですけれども、ここも一つ問題意識を持ってまして、今、地元では、歩行者天国にできないかとか、あとはご提案いた

だいたとおりの一方通行にできないかといったような想定はしているところです。

ただ、あそこは観光客にとっては、観光資源といったような位置づけではあるんですけども、一方で、結構バスが頻繁に通っていて、ほかの地域とを結ぶ大事な生活道路だというような位置づけもあるんですね。そうした中で、地元の方からすると、一方通行になるということに対して、受け入れられる部分と受け入れられない部分というのがあって、我々としても、なかなか結果を出せないというようなところではあります。ただ、ここは一方通行なり歩行者天国にというようなご意見は、皆さんだけではなくて、いろいろな方から頂戴していますので、何とかできる中で頑張っていきたいなと思っています。

3つ目の氷川神社の前の道路については、ここはまさにおっしゃるとおりだなと思います。ここは埼玉県のほうが管理しているところがありますので、ブロックが一部壊れているとか、白線が消えかけているとか、そうした情報については、埼玉県に市からも伝えていきたいと思っています。

4つ目のバスの案内のところについても、確かに少し見上げないと分からないというところがありますので、そこもバス会社のほうとよく調整して、何とかうまくできないかやっていきたいと思っています。

あと今、川越駅東口は、デッキの工事をやっている関係で、案内板をどこにつけようとか、そうした話は、今まさに調整をしているところです。今までいただいたようなご意見を踏まえて、観光客の方も分かりやすいし、利用者も分かりやすいようなものを作っていきたいなと思っています。

あとは、もしお手元にスマホをお持ちなのであれば、各バス会社さんのほうでバスロケーションシステムというのを運用してしまして、各バス会社さんのホームページで、どこからどこまで乗りたいとか、または乗りたい場所か降りたい場所を検索に入れてもらうと、そこに向けての最寄りのバス停からの発車時刻であるとか、今バスがこの辺を走っていますとか、そうしたものが分かるようになっています。実際、川越の市内を走っている西武バスさん、東武バスさん、イーグルバスさん、あとちょっと周辺の国際興業さんのところも含めて、そうしたシステムは導入していますので、使っていただけるとありがたいと思っています。

最後、ホームドアの話ですけども、現状、川越市内でホームドアが設置されているのは、東上線の川越駅だけということになっています。国のほうで優先的に

ホームドアをつけましょうという駅が、平均乗降者数が10万人という基準になっています。現状、川越市内で1日10万人利用する駅は東武の川越駅しかないという状況ですので、今は東武の川越駅が優先的につけられています。

あとほかの駅についても、落下の危険性がないかといったら、そんなことはないと思いますし、恐らくホームの構造からいったら、例えば川越市駅なんかは、結構ホームの幅が狭かったりして、それはそれで落下の危険性もあると思います。一方でホームが狭いということは、ホームドアが取付けられるのかみたいな話もあります。ただ、ほかの駅も当然危険性があるかと思しますので、ほかの駅にもホームドアをつけるといったようなところは、各鉄道会社のほうに言っていきたいと思っています。

#### 《ウェスタ川越の駐輪場》《こども医療費》《バリアフリー》《学生の勉強場所》

**意見** まず初めに、駐輪場についてです。ウェスタ川越の駐輪場は、5時間まで無料で使えて便利な一方、利用者が多くて止め方が雑になっていたりして、自分の自転車を出す際に、ほかの人の自転車を動かして出さなければいけないという手間があり不便なので、よくしてほしいという要望です。

また、木で覆われていて、周りから分かりづらい上に、防犯上、不審者がいても気づかないので、木を切してほしいです。

**意見** 私からは、医療費についてお話しさせていただきます。

埼玉県の中にも、医療費が18歳年度末までのようなところが複数あります。学生のうちは、けがや病気が絶えないので、川越市も18歳年度末まで無料にすれば、高校生でも気兼ねなく病院を受診でき、安心して暮らしていけるし、川越に住みたいと思う人も増えるのではないかと思います。

**意見** 私からはバリアフリーについてお話しさせていただきたいと思います。

バリアフリーを増やすためには、バリアフリーが理解される社会をつくっていくべきだと思います。私が住んでいる富士見市では、小中学校でバリアフリー体験を行いました。バリアフリー体験を実施し、関心を持たせることで、必要性をみんなに分かってもらうことができるのではないかと思います。そして、どの場所にどのようなバリアフリーが必要なのか市民の声を聞く、不便な場所がないか調査などを行って、必要に応じて増やしていくといいと思いました。

蔵造りの町並みは、歩道が平らで、車椅子が通りやすいですが、人がとても多く、車もたくさん通るので、車椅子での観光は慎重にいかないといけないというものです。このような意見があるので、観光を収入源にしている川越にとって、体が不自由な方なども、全ての人が安心して暮らせるようにバリアフリーもプラスできたらと思います。

もしくは、観光客が集まるところは、体が不自由な方も安心してできる時間帯をつくってみてはどうかと思います。例えば時間を決めての一方通行や歩行者天国にするなどです。車の一方通行が不可能であるのなら、歩行者に一方通行のルールをつくってみるのはどうかと思いました。検討していただけると幸いです。

**意見** 僕は、学生が自由に勉強できるスペースを増やしてほしいということについて調べました。

僕たち学生は、夜、部活動や学校行事などで忙しいことが多く、今の図書館の開館の時間では使い勝手が悪いというふうに感じます。働いている人も、今の開館時間では使い勝手が悪いのではないかなというふうに考えています。

ほかの市では、学習室の貸し出しの料金を取らずに、長時間勉強したいと思っている人を支援する施設がたくさんあります。このことから、僕たちは、朝の8時頃から夜の21時頃まで長時間開館する施設を造ることを提案させていただきます。検討をよろしくお願いします。

**市民部長** 幾つかご提案いただいたんですが、時間もあまりなくなってきており、担当の部長が来ていなくなったりしますので、ご意見の内容を担当の部署に伝えさせていただきます。こども医療費については、こども未来部長からお答えします。

**こども未来部長** 高校生の医療費を無料化できないのかということについてでございます。

子どもを対象とする医療費の無料化につきましては、1つにはこども医療費という制度、あともう一つがひとり親家庭等の医療費の支給、おおむね2つあります。

その中で、ひとり親家庭のほうについては、18歳までを対象としているということなので、ここでお尋ねの件についてはこども医療費の制度に関するものだと思います。平成26年1月から、川越市のこども医療費は、15歳まで、中学校卒業するまでの間ということで対応しています。

お話の中にも、県内では18歳まで対象年齢を拡大しているところがあるという



ことをございますけれども、去年の10月1日現在ですと、入院の場合が60団体中26、通院の場合は63団体中23ということで、それぞれ増える傾向にはございます。

ただ、川越市では、まだ15歳までという制度になっています。というのも、子ども医療費は、年間で11億9,000万円ぐらい川越市が支出しています。そのうち埼玉県からは1億4,000万円ぐらいの補助金をもらっているのです、10億4,000万円ぐらいが、皆さんのお父さんやお母さんが働いた税金で賄っています。

中学校3年間ですと、おおむね1億8,800万円ぐらいのお金がかかっています。そのまま高校3年間までスライドすると、おおむね1億9,000万円弱ぐらいのお金がさらにかかるというところをございます。そのような中では、対象の年齢の拡大というのは厳しい状況となっております。

ただ、入院と通院を比べますと、入院については、比較的額のほうは少ないので、過去に川越市でも、まず入院のほうを先に拡大して、その後、通院をとという形でやってきたところもございますので、その辺は今後の財政状況等を踏まえた中で、総合的に検討していく必要があると考えています。

**市長** いろいろ貴重なご提案やご意見を頂戴しまして、ありがとうございます。

若い皆さん方が川越市の現状であるとか、地域のあり方、それからあるべき姿等について一生懸命考えてくれていることに大変感心しました。大変ありがたいと思っております。

提案いただいたこと等については、すぐに対応できることと、予算との関係もあってなかなか難しいことがあるという、その辺のところはご理解いただきたいと思っております。いずれにしても、本当に貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。これからもぜひ川越市のことを考えて、川越市をよくするためにいろいろご協力をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本日はありがとうございます。